

# What's happening?

## 日本の印象

大学院先端技術科学教育部環境創生工学専攻  
博士前期課程1年

LE THI XUAN THUY

レティスン テウイ [ベトナム]



川島織物工場見学

日本に来てから6年が経過した。この長い間に日本について様々な印象が残ったが“日本が学び社会”だという印象が一番強かった。これは外国人が異文化を学ぶ場所という意味だけではなく、誰でも学習できる環境が作られており、多くの日本人がその環境に積極的に参加する印象を意味する。

日本では、様々な分野を指導する教育機関がたくさんあり、学ぶ人のニーズに応えている。更に、多くの国民は同様に教育を受ける機会を有する。学校に通わなくても、自宅のテレビを付けるだけで、普段学校で学べない知識を身に付けることも可能である。特に教養番組は視聴者を楽しませると同時に様々な知識を与えている。視聴者がつまらなく感じないような日本の番組における放送の仕方がとても素晴らしいと思う。ニュースの場合でも、年齢を問わず誰にとっても分かりやすくするために、ボードからコンピュータグラフィックの映像まで色々な手法が用いられ、画面の下方向にも字幕が映っている。私はそれらに対してとても感心している。



佐川奨学生との記念撮影(前列右から2番目が筆者)

良い社会環境に恵まれている日本人は受け身にならずに自ら学び社会に入ろうとしている。電車で本を読む人々、数多くの学会を設立したこと、その参加費がいくらでも払って、その場で知識を交換する日本人が少なくないこと等は学びに対する日本人の積極的な行動を示すものである。このような行動をもたらす動機はどんなものか、どのようにして生じるのか。この問いには今非常に関心を持っている。教育に関する社会的なサポート、いわゆる学び社会がその動機を生じさせるに違いないだろう。そして、日本人には自己実現の価値観が強いかもしれない。興味を持っていることならば、いくら資源を投資しても構わないため、様々な役立つ情報を収集して、その分野をマスターする。



ベトナムと日本の環境保全合宿セミナーの記念撮影

今まで意識しなかった母国のことは日常生活で触れ合う日本人のおかげで、よく理解できるようになった。それは2カ国の異文化から母国をより知ると言っても良い。この印象によって日本の優れた環境をベトナムにも反映させ、日本のようにベトナムを発展させたい気持ちが強くなったのである。

